

堀川
かくれ
産業・土木
遺産

大木で埋まる川面 木材クレーン



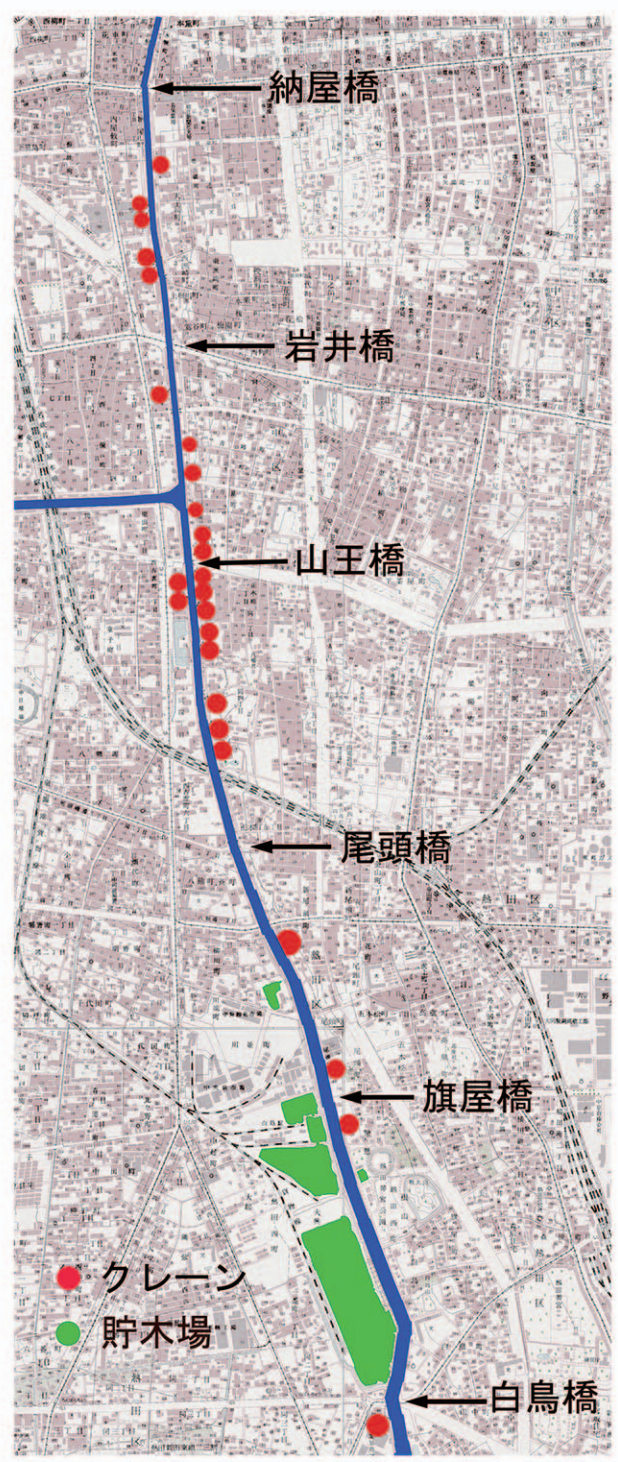
クレーンによる巨木陸揚作業



岩井橋付近を行く筏 名古屋港管理組合蔵

かつての堀川は木材の川であった。たくさんの木材が筏いかだに組まれて堀川を遡り、川岸の製材工場へと運ばれた。堀川の川面は中央部を残してびっしりと筏が浮かび、林立する岸のクレーンは水のしたたる太い木材を陸揚げしていた。川沿いの道路を挟んで製材工場があり、道路には川岸と工場を結ぶトロッコのレールが横断している。陸揚げされた原木はトロッコで道路を横切り工場へと運びこまれ、製材機の台車に乗せ替えて、ベテランの作業員が木の素性すじょうを読み一番きれいな木目がでる向きに固定する。うなりを上げる大きな帯鋸が木を挽ひいてゆくとストーンと切り離され、木の香りと共に生まれたばかりのみずみずしい木肌が現れる。この作業を木挽こびきと言う。

騒音とおが屑が一杯の工場は活気にあふれ、名古屋と堀川の繁栄を象徴する風景であった。昭和31年の地図には25基のクレーンが記してあるが、今ではそのほとんどが姿を消した。もう筏を見かけることもなく、クレーンも少なくなった。



25基の木材クレーン 昭和31年の地図



わずかに残る木材クレーン



公道を横ぎるトロッコの線路 中区正木 平成13年